

学校関係者評価委員会（オンライン）議事録

1. 開催日時：令和3年5月25日（火）10：00～10：40
2. 出席者：【学校法人明星学園 浦和学院専門学校 学校関係者評価委員会】
 - 委員長 城戸秀美様（埼玉精神神経センター 看護部長）
 - 副委員長 上山悦代様（元浦和学院専門学校 副校長代理）
 - 委員 小袋伸枝様（浦和学院高等学校 副校長）
 - 書面出席：委員 片岡 彩様（本校卒業生、吉川中央総合病院 看護師）
 - 【学校法人明星学園 浦和学院専門学校 自己評価委員会】
 - 委員長 遠藤貞子（学校長）
 - 副委員長 中安ゆかり（学科長）
 - 委員 黒川由美子（副学科長）
 - 委員 遠山 卓（事務長）
 - 委員 関根美央（事務主任）
3. 開催場所：浦和学院専門学校セミナー室
以下の出席者は、Web 会議システム「Zoom ミーティング」により参加した。
 - 委員長 城戸秀美様（埼玉精神神経センター）
 - 副委員長 上山悦代様（個人宅）
 - 委員 小袋伸枝様（浦和学院高等学校職員室）
4. 議事次第：（1）開会
（2）校長挨拶
（3）各委員自己紹介、委員長挨拶
（4）令和2年度自己点検自己評価実施内容の結果報告
（5）自己点検自己評価に基づき質疑応答
（6）その他
5. 配布資料：令和2年度自己評価報告書（事前配布）
6. 議事録
 - （1）開会
学校長遠藤より、過半数の委員が出席していることが報告され、学校関係者評価委員

会開会が宣言された。

(2) 校長挨拶

学校長より令和2年度は新型コロナウイルス感染対策に明け暮れ、学校経営はその対応が中心であったとの挨拶があった。

(3) 自己紹介、委員長挨拶

各委員が自己紹介を行った。また委員長より、さいたま市における高齢化が進んでいる状況等の説明があり、社会に貢献できる看護師を養成する、より良い学校づくりを行うためにも委員の皆さまより忌憚のないご意見をいただきたいとの挨拶があった。

(4) 令和2年度自己点検自己評価実施内容の結果報告

I. 学校経営

令和1年度より0.5ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに学校長より、令和2年度の重要課題3点「国家試験合格率100%の達成」、「2022年新カリキュラム改正に向けた教育課程の構築」、「教育の質の向上、組織的、機能的な学校運営の確立」の成果、説明があった。

II. 教育課程・教育活動

令和1年度より0.7ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに学科長より、カリキュラム改正に向けた教育課程の編成、新型コロナウイルスの影響による、実習や授業形態の変更等について説明があった。

III. 入学・卒業対策

令和1年度より0.6ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに学科長より、学生募集活動や、第110回看護師国家試験の合格率100%を達成できたこと等の説明があった。

IV. 学生生活への支援

令和1年度より0.5ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに学科長より、スクールカウンセラーの活用や新型コロナウイルスの学内感染を防止できたこと等の説明があった。

V. 管理運営・財政

令和1年度より0.9ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに事務長より、危機管理、情報管理、財政について説明があっ

た。

VI. 施設設備

令和1年度より0.6ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに事務長より、学生定員増員、新学科設置計画に伴い、校舎を全面改修する旨説明があった。

VII. 教職員の育成

令和1年度より1ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに学科長より、職場内研修実施やリモート研修参加等について説明があった。

VIII. 広報・地域活動

令和1年度より0.1ポイント高い結果であった。

「自己評価報告書」をもとに副学科長より、広報活動と地域活動について説明があった。

(5) 自己点検自己評価に基づき質疑応答

I. 学校経営

- ・コロナ禍で大変であったと思うが、教職員一丸となり、学校運営ができたことは良かった。

II. 教育課程・教育活動

- ・令和4年度のカリキュラム改正に向けた教育課程編成に際して、学校の独自性や社会の要請に応える内容になっており、先生方の努力は高く評価できる。
- ・新型コロナウイルスの影響で、臨地実習ができず、学内実習を構築されたことは、大変苦労されたと察する。
- ・新型コロナウイルスの感染対策として、遠隔授業を開始したことは、学生の単位修得に向けた支援が実施できたと言える。
- ・実習評価では、ルーブリックを導入したことで教育の質の向上につながったと考える。
- ・講師会議を開いて、講師の先生方とも学校の教育方針を共有し、より質の高い授業を目指してほしい。
- ・臨床との連携強化のため、指導者会議の方法を見直してほしい。
- ・委員長「感染の状況により、4月から7月にかけて看護学生の実習を受け入れることができず、申し訳なく思っている。当院から講師派遣を引き続き行い看護教育に協力していきたい。学内実習は、具体的にどのように取り組んでいるのか？」→会議後に、校長より電話にて回答した。

III. 入学・卒業対策

- ・少子化が進む中、定期的に説明会を開き、応募者確保に努力している。
- ・大学を卒業して就職せずに看護師を目指す学生が増えていることから、大学への募集活動も行ってはどうか。
- ・国家試験合格率 100%は大変すばらしい。
- ・国家試験対策としては、学年縦割りのグループでの学習は効果的であるため、是非検討してほしい。

IV. 学生生活への支援

- ・学生自治会の活動を活性化させることによって、学生のうちから、看護師になっても必要な責任感を持たせていってほしい。教員が手取り足取り指導するのではなく、学生主体の自発的な活動をすることが大切である。

V. 管理運営・財政

- ・支出の削減と収入の確保が重要である。
- ・学生定員増と臨床検査学科（仮称）設置の計画中であることから、収益増大が期待される。

VI. 施設設備

- ・校舎のリニューアル工事を開始することから、学生の学習環境の向上に努力していることがわかった。

VII. 教職員の育成

- ・ラダー制度を活用して、教員の育成を図ってほしい。到達目標を明確にし、どの様に教員を育成していくかが大切である。

VIII. 広報・地域活動

- ・同学園の高校との交流（高校保健医療クラスに対する看護技術体験実習、式典での高校吹奏楽部の生演奏）は、広報・地域活動に取り組んでいるとして評価できる。

(6) その他

学校のさらなる発展のため、本日の議論を今後の学校運営につなげていただきたいと委員長より述べられた。